本高同窓会報

発行
本庄高校同窓会
会長　戸谷全克
事務所　本庄市中央1-7-21
戸谷八内

御挨拶

第七代同窓会会長　戸谷全克

同窓会報第二〇号を発行するに当たり、各地で御活躍の二万五千有余の会員の皆様に親しく御挨拶出来る機会を得ました事を大変有難い事と思っております。

この度岡直前会長には母校創立七〇周年記念諸事業を立派に為し遂げられたのを機に、後進に道を譲るべく昭和五九年（一九八四年）六月ご就任以来満一〇年に亘る会長職を退かれる事になりました。その間財政基盤の確立、組織の強化、情報の伝達の為にそれぞれ終身会費納入の勧誘、支部組織の再構築、同窓会報の定期発行等に優れた指導力を発揮なされました。

私はこの様な素晴らしいお方に親しく御薫陶を戴く機会に接し、同窓会活動にも微力ながらお手伝いさせて頂いて参りましたが、去る六月二六日の平成六年度通常総会に於て、図らずも指名委員会よりご推挙を戴き更に出席会員全員のご推薦により、名誉ある母校の第七代同窓会長の重職をお引き受けする事になり身の引き締まる思いであります。

指名委員の方々には間近に迫った二一世紀に向けての展望から、この際同窓会も高校卒が会長職を引き受けるべきであるという機運が大勢を占め、その為にはまず順序からいって一回卒が先鞭を着けるのが望ましいという事になり、たまたま私が高校一回卒という事と本部役員の末席を汚していた為、会運営の継続性も得られるとのご判断があったと仄聞致しております。

幸いにも一〇年来苦楽を共にして来た役員の方々の外に新役員二名のご協力も頂ける事になり会運営はスムーズに行えるものと確信致しております。然しながら組織の巨大化に伴う連絡網の整備、人事の刷新、一〇数年来据え置かれている会費等内部の問題や母校の進学、就職に関しての検討事項等考えてみますと研究し解決を要する問題点も多々見受けられます。

その為には是非とも衆知を集める体制作りが必要と思われますので会員皆様の一層のご支援ご協力の程をお願い申し上げましてご挨拶と致します。

関根義夫先生　母校で講演

本年度の講演会は、本高第一一回卒業生で現在東京大学医学部助教授として、同大付属病院分院神経科科長である関根義夫先生をお迎えし、左のとおり行われます。

日時　11月30日（水）
　　午後一時三〇分より
場所　本高体育館
演題　「伝えたい二つのことを」

略歴
昭和15年　前橋市に生まれる。
昭和18年　本庄市に転居。
昭和34年　本高卒業。
昭和34年　東京大学教養学部入学。
昭和41年　東京大学医学部卒業。
卒業後精神科医師として、財団法人神経研究所付属晴和病院　三年、小川日赤　二年、国立武蔵療養所（現国立精神神経センター武蔵病院）一五年　勤務し、平成元年東京大学医学部助教授となり現在に至る。

図書寄贈を！

同窓会報18号で図書寄贈を呼び掛けましたところ、前19号でご紹介致しました書物に引き続き左記の本が寄贈されましたのでここに感謝を込めて著者名、卒年並びに作品名を掲載させて戴きます。

同窓生よりこのように著書が送られてくるということは在校生は勿論会員にとりましても大変励みになりますので今後も宜しくお願い致します。

著者　田島　一夫（中11）
「ニューギニア戦悲劇の究明と検証」
著者　五十嵐基興（高4）
「筑波山残照」「桜石」
著者　北沢　文武（高5）
「山里の殉教者たち」
著者　田中　豊（高18）
　　吉田　信解
「こんなまちにしてみたい」

本部役員

（平成六年十月現在）

会　長　戸谷　全克　高1
副会長　立川　大作　中9
副会長　高木　敏子　女8
副会長　清水　實　中19
副会長　吉田　建治　高2
副会長　塚越　寿衛　高2
副会長　竹並栄一郎　併中2
副会長　小林　晶　高12
副会長（教頭）飯島輝雄　高11
副会長（教頭）小櫃俊夫
会　計　内野ヨシエ　女16
会　計　清水　正一　高6
監　査　江原　清吉　高4
監　査　竹内恵美子　高6
顧　問　塩原　英雄　中2
顧　問　岡　祐孝　中9
顧問（校長）坂本　博　高7

支部役員

（支部長）

宮　本　栗村　龍男　中16
泉　町　竹並栄一郎併中2
仲　町　中田　脩一　中19
上　町　境野　登　高2
七軒町　町田　一徳　高5
本　町　鈴木　清司　中21
台　町　松本　敬一　定1
照　若　飯野　利衛　中19
南本町　村田敬次郎　中22
末　広　野枝　直治　高5
諏　訪　井上　昌幸　中22
朝日町　内藤　明　高3
藤　田　荻野　清　中8
仁　手　福島　好正　高3
北　旭　泉　亀田　本二　高4
今　井　門倉　義久　中11
児　玉　岡芹鶴五郎　中10
美　里　吉田　建治　高2
神　川　春山　一三　高3
神　泉　金井　久直　中22
上　里　新井　従信　中15
岡　部　荒井冨次雄　中11
寄　居　茂木　肇　中14
深　谷　朝比奈利雄　中9
熊　谷　清水　實　中19
県庁県南　西村　茂雄　中17
伊勢崎　中居　武夫　高5
新　町　吉澤　唯志　高11
東　京　山口　仁一　中14
本庄市役所　冨田　三郎　中4
エーザイ　小林　晶　高12
沖電気　常木　茂司　高5
郡市教職員　村岡　徳英　高15
郡市教職員　福島　巌　高8

柏陵消息

教育改革と進路指導

校長　坂本　博

同窓会員の皆様には日頃何かと御支援・御協力を頂き、厚く御礼申し上げます。

秋は旅情をそそる季節ですが、近頃は、全国どこに行ってもコンビニ店があり、ファーストフード店があり、洋服店や電機店のチェーンストアがみられます。地方の独自性が薄れ、衣・食・住とも全国的な画一化、均質化の傾向が進んでいるようです。

振子が一方に強く振れるとその反転で、今や、逆の独創性、個性化が求められています。

時代の動向に比較的超然としていた伝統的な大学でも多様性、個性化を求める動きが盛んで、社会のニーズに対応して、教養部（一・二年生）の改革や、学科の再編、新設、更に大学院の本格的な拡充などが提起され注目されてます。

高校でも、普通科と職業科の外に、総合学科がつくられ、普通科と職業、専門学科とを総合するような新しい学科をもつ学校が設置されました。

時代や社会の変化に対応して、教育のあり方も絶えず見直される必要があります。

大学入試も、偏差値による大学選択する時代が終わり、大学の中味で選択する時がくると思います。大学や短大、専門学校の教育内容、教授陣、教育環境などの情報を的確に伝えるメディアは今より飛躍的に発達し、日常の進路指導に活かされる。既に大学では年間の授業計画（シラバス）が作られ、学生による授業評価も実施されつつあります。

大学の教官が学生から授業の評価を受け、その改善を図るとは画期的なことです。

高校の進路指導も大きく変わる時代が目前にきているようです。変化に対応した意識改革は大学にも高校にも同時に必要となってきました。

私と野球

旧中二十二回卒　山中　清

私が本格的に野球を始めたのは、終戦直後中学四年の時である。それまで抑圧された生活から解放されたものの、敗戦によって自信も希望も失いかけていた私に新たな目標を与えてくれたのが野球であった。当然再発足した野球部の一員として参加した。

用具も乏しく、食糧難で今では想像も出来ない時代であったが、私にとっては野球がやれるということで、どんな困難も問題ではなかった。

明けて昭和二十一年、戦後初の県大会が開催され、幸運にも本中初の優勝を勝ちとることが出来た。

その時の決勝の模様を埼玉高校野球史から引用してみる。

「〇－〇の同点で迎えた延長十回表、熊中は四番田島が投手を強襲し、並木左肩安打、松崎の捕手打撃妨害と続き無死満塁とし、荻原の投前ゴロは石原投手の足をよろめかし一点を入れた。続いて野本の遊撃ゴロは名手山中が二走の松崎を刺殺し、更に三走の並木を本塁前でタッチアウトにとり、追加点を阻止した。十回裏鮮やかな幕切れが待っていた。二死後本庄中は脇坂の三遊間安打、山中の中越え三塁打で同点とし、四番中田の右翼線安打で決勝点をあげ、熱戦に終止符を打った。」（原文のまま）この記事は私にとっては大変面映いが、私の人生を決める重大な出来事であった。

それにはもう一つの理由があった。それは当時私は某大学を受験していた。敗戦の混乱で入試が大幅に遅れ、五月になってから四修資格での試験が行われた。まさか学科試験をパスするとは思ってもみなかったが、一次合格、二次は面接だった。ところが五月二十一日県大会決勝戦の日と二次が重なってしまったのである。先生や両親は二次に行けと云い、チームメートは野球に出て欲しいと云う。私自身も迷いに迷った。

当日東京行きの切符を買い、受験と試合両方の準備をして列車に乗った。しかし結局は大宮で下車、決勝戦出場となったのである。この優勝も大学入試を捨てチームメートと行動を共にした少年に対する神様の温かい贈物であったかも知れない。

その年の夏、戦後初の全国中等学校野球大会県予選でも決勝で浦和中を破り優勝、南関東大会（埼玉・千葉・神奈川の代表）に駒を進めたが、横浜商業に延長逆転サヨナラ負けを喫し、甲子園出場の夢は断たれてしまった。

秋になると進路を決定しなければならない。私はW大、K大、H大を希望していた。当時華やかな六大学野球にあこがれていたからである。自分のことで恐縮だがプロからも誘いがあったが断った。そして結局早稲田に入った。しかし順調にはいかず練習の無理がたたって肋膜炎を患い、医師から野球は無理と診断され退部を余儀なくされた。私にとって一番辛い時代だった。

卒業後は地元の社会人野球に加わり、都市対抗野球で県三連覇などしたが、全国大会には出場出来なかった。

その後先輩の誘いで中学教師に変身、二十数年間中学生を相手に野球を教え続けて来た。野球の教え子も三百人近くなる。県大会でも七度優勝し、（まだこの記録は破られていない）私が果たせなかった甲子園出場の夢や、六大学での活躍も、教え子たちが果たしてくれた。しかも私の教師生活の節目節目には、かつての教え子たちが集まり祝ってくれた。退職時には温泉へ。なお私夫婦をハワイにまで招待してくれた教え子もいる。還暦には赤いユニホームを新調し、長生きするよう願ってもくれた。本当に有難いことである。

私はこういった人間関係が野球を通じて出来たことを心から喜び誇りにさえ思っている。幸せな人生だ。

前本高野球部OB会会長
元本庄東中学校校長

浦野智行氏 日本音楽コンクール入賞

本高三三回卒の浦野智行氏が本年度日本放送協会、毎日新聞主催の日本音楽コンクール声楽部門で三位に入賞されました。浦野智行氏（バリトン）は本高同窓会総会（平成四年度）で記念演奏もされ、音楽界への飛翔が期待されます。

東京芸術大学声楽科卒、同校大学院研究科オペラ専攻修了。

柏陵消息

母校の近況

教頭　飯島輝雄

平成六年三月の進路状況については、前号で報告致しましたように浪人を含めての実数は表のとおりです。

国公4大	13(3)
私立4大	189(81)
国公短大	3(3)
私立短大	73(70)
専門学校	73(68)
就　職	5(5)

（）は現役。また現役の大学合格率は四〇％でした。

次に施設面ですが、格技場の内部が全面改修され、柔道部、剣道部の練習は活気が出てきました。特に柔道部には埼玉大学の柔道部の主将をしてた森先生を顧問に迎え、かつての本高柔道部の復活が期待されます。また、理科棟も内部塗装を行い非常に明るくなり、教育環境は一段と良くなりました。

◇部活動について

今年度も残念ながら、関東大会等に出場した部活動はありませんでした。しかし年々運動部の入部者も増え、練習は活気を帯びてきています。文化部も頑張っており、演劇部では、埼玉高校演劇祭で関東大会出場をかけた中央大会に進んでいます。

◇学校行事関係

○四月二八日、歓迎ハイク
大久保山周辺でオリエンテーリング

○五月三〇日～六月一〇日、教育実習、11名の卒業生が実習した。最近教員の採用も少なく厳しいが、全員の合格を期待しています。

○九月二〇日　体育祭

○九月二四日～九月二五日
文化祭

○一〇月一日　学校説明会
平成七年度の入試にむけ本高の紹介、学校見学を行う。千名を超える中学生、保護者が参加した。
次は予定ですが、

○一一月二二日　芸術観賞会
今回は古典芸能

○一一月三〇日　講演会
講師に本高第11回卒業生で東京大学医学部助教授・関根義夫先生をお迎えして行います。生徒むけですが、同窓生もどうぞ。

○三月一〇日　卒業式

それでは、学校行事のうち柏樹祭についての概況を特活部の北川教諭より報告します。

柏樹祭

教諭　北川真一

秋空のもと若さ爆発

今年も第四五回柏樹祭の体育の部が九月二〇日、文化の部が九月二五日・二六日に行われました。テーマは『更更さらさら』本庄高校の更なる発展をめざしたものです。

◇体育祭

晴天のもと千二百人あまりの本高生が、そのパワーを爆発させました。色とりどりのクラスお揃いのTシャツやハッピ、風にはためくクラス旗、全員の入場行進の後、競技に入りました。男子二〇〇M、女子一〇〇M、真剣なまなざしと若い汗。続いて借り物競争、パン食い競争、玉入れ、和やかな笑いがグランドに溢れました。午後は部活対抗リレーから、各部とも工夫を凝らし衣装やパフォーマンスで自分の部をPRしながらトラックを回った。そして綱引き、力と力の対決が続きます。クライマックスはクラス対抗リレーでクラスの力が試されるとあって選手はもちろん応援合戦も最高潮に達し、大きく盛り上がった体育祭もフィナーレを迎えました。

◇文化祭

こちらも心配であった雨もあがり、日曜日は多くの入場者を迎え、各部活動やクラス、PTAが参加し華やかなシーンが繰り広げられた。『柏樹祭』と書かれた大きなゲートをくぐると若い声が飛び交います。体育館では吹奏楽部、演劇部の公演、ステージでの毎日の練習の成果が発揮され入場者もしばしうっとり。

理科棟では、生物部のザリガニの研究、手作りのパンのおまけ付き、地学部のプラレタニウム、美術部の力作揃いのミニ美術館、電気部のパソコン。化学部では風船、アイスの無料サービスもあり子供連れの入場者には大好評でした。

HR棟の一階と二階は文化部の研究発表です。社会科研究部は富士山関係の資料や御獄山「お犬様」などの展示発表、図書部は枕草子の研究、考古学部はピラミッドの謎にせまる展示、保健委員会では環境問題についての研究発表、廃油による石鹸づくりや牛乳パックを利用したバスケットなども。PTAでは会員の作品展示とバザー、それぞれ趣味を生かした秀作揃いでした。

（以下省略）

◈◈◈◈◈

終身会費納入についてお願い

親愛なる会員の皆様、私達は母校への寄与貢献と会員相互の親睦向上を念願に努力しておりますが、そのための財源は終身会費(壱万円)を主としておるわけであります。従いまして未納の方の御協力をお願い申し上げる次第です。終身会費ご納入の際には左記口座にご入金下さい。

郵便局振込口座番号
〇〇一三〇-六-一八七〇二一〇

尚、終身会費納入者には必ず会報を送らせて頂いております。又今回は昭和54年3月卒業の方から平成6年3月卒業の方には全員に送付致します。

本高同窓会役員一同

終身会費納入者芳名（卒年別敬称略）

平成6・4・1～6・10・31

中9　吉岡樹作
女18　(石川)高田ミツ子
定17　(武井)橋本米子
定22　斉藤良平
定23　丸木和幸
定26　(大河原)加藤育枝
高4　倉崎方夫
高7　(飯塚)茂木利子
高11　(甲原)内田君子、(根岸)渋沢喜代子
高12　坂本忠久
高14　(常木)根岸美保子
高17　(岡)林恵美子
高18　大和田賢、小島貫美子、(深沢)岩崎幸子、(小暮)新井千代子
高21　恩田　潤、川瀬邦俊、斉藤晴夫、瀬間宣男、滝沢春子、中村寧男、蛭川行雄、星野陽子、松本勝雄、(矢島)金子三枝子、(山下)廣長有子
高22　(浅見)松島智子、飯野和彦、岩田麻由美、(小林)市川典子、小林実、(中原)常木雅美、古川元彦、村岡　満
高23　(小沢)黒瀬道子、門倉勇治、(野坂)渡辺よし美、(松崎)小川知子、持田光明、(茂木)小谷孝子
高24　(野村)田島美沙子
高25　小鮒美和子、高沢秀喜、(田島)浜尾政子、(持田)沼上文明
高26　新船真紀夫、宇野宏巳、倉林典之、境野智久
高27　石井英男、下条俊亮、野沢章夫、村山　勝
高28　坂戸幸弘
高29　伊藤道恭、大嶋紳一郎、(木村)田村玲子、(渋沢)岡芹みどり、(龍則)新井ひろみ
高30　青木　徹、上田敦弘、田島　勇、持田悟史
高37　宮永茂樹

平成六年度進路指導説明会より抜粋

教育方針

(進路指導)

ア、基本は毎日の授業である。
進学に十分対応できるレベルとスピードで展開されている。

イ、三者面談
六月に進路相談を中心に〇三者面談、その他随時個人面談を行っている。

ウ、進路相談
進路室が整備され、進路資料の提供、進路相談に当たっている。

エ、進学模擬試験
模擬試験は自分の実力を試すよい機会である。

三年生は希望者に大学・短大模試を年六回以上、公務員試験も年五回実施。
一、二年生は全員に実力試験を年五回実施。

生徒について

学級数　一年　9クラス
二年　9クラス
三年　9クラス

スローガン

1．名誉ある歴史と伝統に輝く母校を愛し母校の発展に寄与しよう。

1．本高同窓会の旗の下に結集し、地域に香り高い文化の花を咲かせよう。

1．人間関係を大切にし、会員相互間に親睦の輪を拡げよう。

1．組織を整備強化し、機能的な連絡網を拡充して、同窓会の活性化を図ろう。

1．建学の精神を尊重し、後輩の指導育成に努めよう。

住居別生徒数

住居	1年	2年	3年	計
本庄市	70	115	91	276
上里町	46	31	41	118
児玉町	29	31	38	98
神川町	17	10	16	43
神泉村	3	3	4	10
美里町	19	14	14	47
寄居町	1	8	7	16
川本町	12	4	3	19
岡部町	17	23	27	67
深谷市	85	57	67	209
熊谷市	67	81	69	217
妻沼町	3	14	13	30
群馬県	8	15	13	36
その他	2	8	5	15
計	379	414	408	1201

生徒数

性別	1年	2年	3年	計
男	168	196	185	549
女	211	218	223	652
計	379	414	408	1201

部活動

運動部

	弓道	剣道	柔道	サッカー	硬テニス	軟テニス	水泳	野球	ソフト	体操	卓球	陸上	バレーボール	バスケットボール	登山	計
男	21	19	22	60	35	15	16	40	*	9	13	15	22	50	3	340
女	26	17	9	5	55	20	30	0	15	13	5	11	23	39	3	271

文化部

	写真	新聞	図書	放送	文芸	演劇	美術	書道	吹奏楽	英語	社研	考古学	生物	化学	地学	電気	茶道	計
男	3	3	1	7	0	6	3	2	9	4	13	0	4	2	1	30	0	80
女	8	1	13	8	22	33	30	67	29	2	2	2	8	10	9	10	72	328